



平成 24 年 1 月 6 日  
独立行政法人国立科学博物館

## 筑波実験植物園から日本新産のきのこ発見

独立行政法人国立科学博物館（館長：近藤信司）は、同館筑波実験植物園内で、これまで日本では知られていなかったきのこを 2 種類発見しました。

筑波実験植物園では、2010 年 6 月及び 2011 年 4 月に園内で 2 種類のきのこを発見し、これまで、その系統学的検討と系統解析を行ってきましたが、この度、これらが日本では未報告のものと判明しました。

ひとつは園内の池の近くの土壌で発見されました。微小なきのこやカビには、まだよく知られていないものが多いのですが、現在のところ、このきのこは日本では唯一、筑波実験植物園でのみ見られるもので、トゲミノダイダイサラタケと名付けました。

もうひとつはブナなどの樹木で構成されている冷温帯落葉広葉樹林でした。開園 30 年近くなり、園内の樹林帯がやっと成熟してきたのが生育できた原因なのかも知れません。フタツミシロヒナノチヤワンタケと名付けました。

### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

筑波地区事務部 総務担当：中嶋 まさ枝

担当研究員：細矢 剛（植物研究部菌類・藻類研究グループ）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: mnakajim@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP <http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

## 研究成果の詳細について

最近植物園内で発見された微小なきのこをつくる菌類 2 種が、いずれも日本新産種(海外ではすでに報告があるものの、日本では未発見であったもの。新種とは異なります)であることが判明しました。

日本には、現在 12,000 種ほどの菌類が知られていますが、実際にはこれよりずっと多くの菌類がいるものと考えられ、今回の発見は、身近な場所からもじっくり調査をすることによって、まだ未報告の菌が発見される可能性があることを示しています。なお、学術的な報告としてこれらについては、2011 年末に発行された『国立科学博物館研究報告 (Series B)』に取り急ぎ掲載しました。

### 発見種について(1 つめ)

ひとつは 2010 年 6 月に園内の池付近の土壌上で発見されたもので、直径 1mm 前後のオレンジ色の円盤型のきのこを形成する子囊菌類の一種です。*Ramsbottomia asperior*(ラムスボトミア・アスペリオール)という菌であることが判明しました。本種は、北米、南米、ヨーロッパ、ニュージーランドなどから知られていますが、今まで日本では報告がありませんでした。このきのこの和名はトゲミノダイダイサラタケと名付けました。

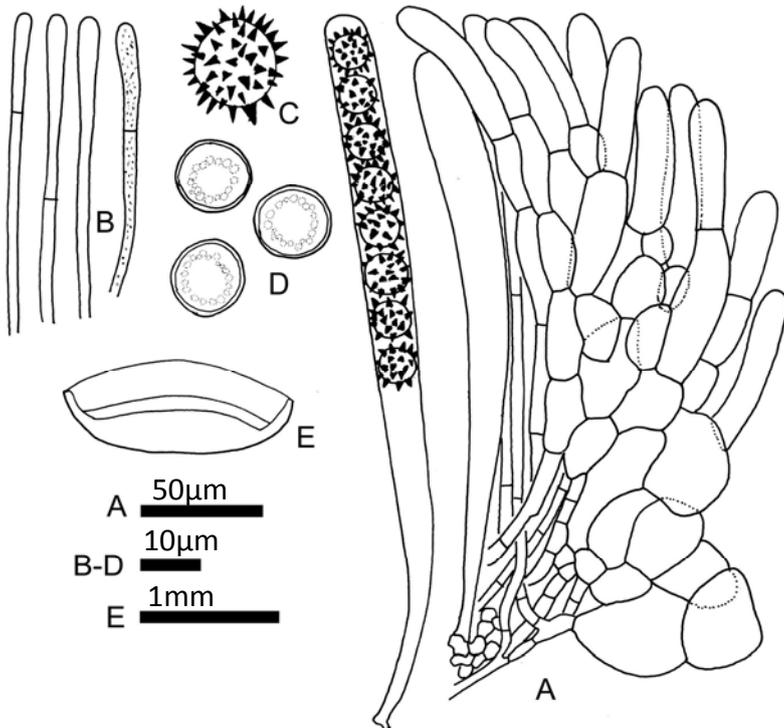
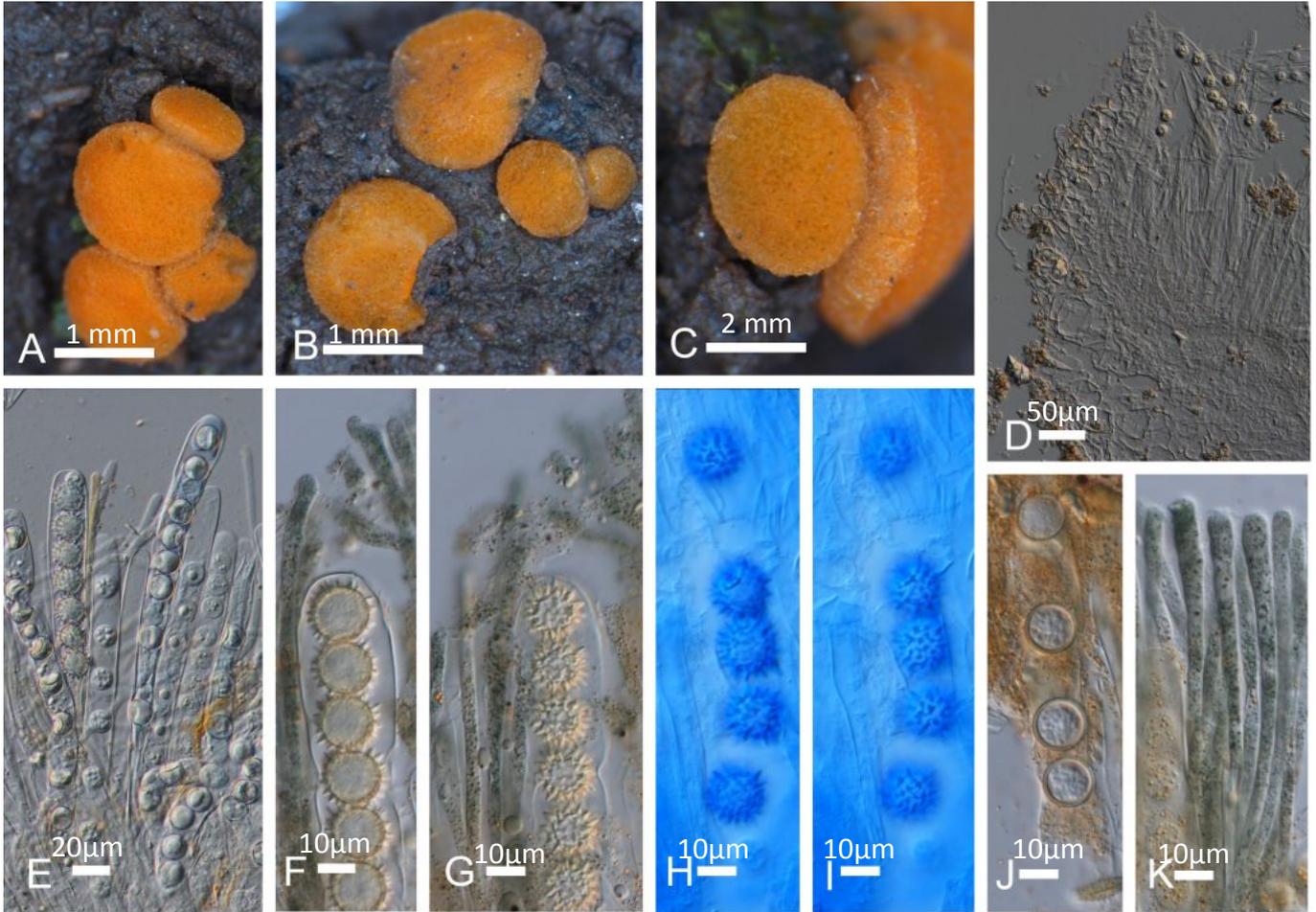
### 発見種について(2 つめ)

もうひとつは、2011 年の 4 月に発見されたもので、1mm に満たない非常に小型の円盤型のきのこを形成する子囊菌類の一種。調査の結果、*Proliferodiscus alboviridis*(プロリフェロディスカス・アルボヴィリディス)という名前の菌であることが分かりました。世界ではアメリカ、オーストラリアから報告がありますが、他の地域からの報告はありません。また、この研究途上で、すでに 2006 年に群馬県から得られていた未同定の標本も本種であることが判明しました。このきのこの和名はフタツミシロヒナノチャワンタケと名付けました。

いずれの菌も、現在、海外研究者との共同研究などによって、その分類学的位置についても遺伝子の解析を用いた分子系統学的視点から検討が進められています。なお、国立科学博物館は内外のこのような遺伝子解析研究を支援するため、2006 年より分子多様性研究資料センターを設置しています。

報道用の資料を用意しました(添付書類を参照)。ご希望の方は、メールにて担当研究員の細矢宛にご連絡ください。また、本件の詳細につきましては、前ページ問い合わせ先にお問合せ下さい。

# トゲミノダイダイサラタケ



## 【上の写真の説明】

A-C: 子実体(きのこ)の拡大写真。  
 D: 子実体の断面。  
 E: 子嚢(胞子をつくる袋)。  
 F-J: 子嚢の拡大。内部に見える子嚢胞子に注目。  
 薄いオレンジ色で、青い色素(コットンブルー)で染色されるトゲがあります(H,I)。  
 K: 側糸。

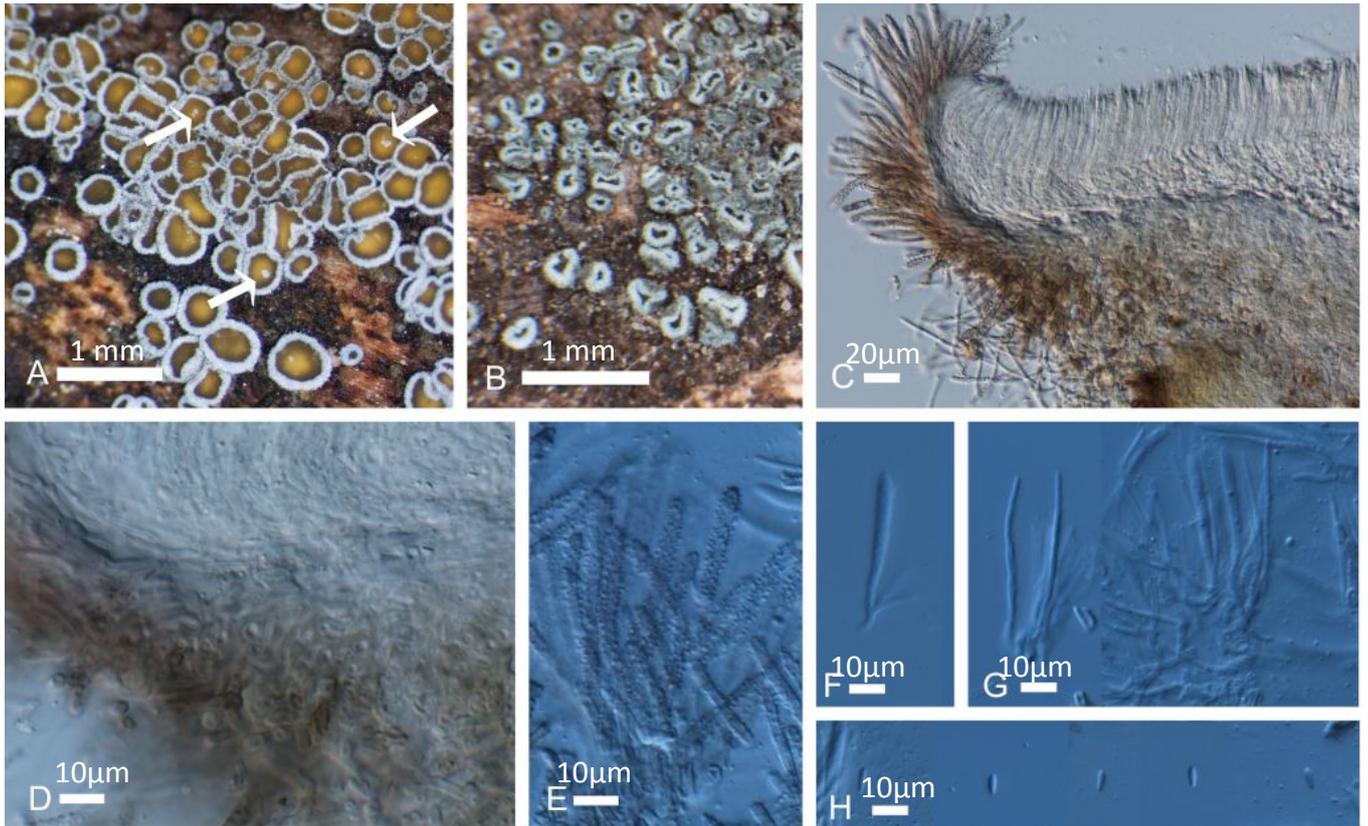
## 【左の図の説明】

A: 子実体の断面。  
 B: 側糸。  
 C: 子嚢胞子。  
 D: 若い子嚢胞子。まだとげができていない。  
 E: 子実体の断面の概略図。

和名の由来: 胞子(身)に目立ったとげがあることから「トゲミ」、オレンジ色の皿状の子実体をつくることから「ダイダイサラタケ」ということで、「トゲミノダイダイサラタケ」としました。

標本番号: TNS-F-39240

# フタツミシロヒナノチャワンタケ



## 【上の写真の説明】

- A, B: 子実体(きのこ)の拡大写真。矢印で示した部分に、二重に子囊をつくる層ができるのが特徴。
- C: 子実体の断面図。
- D: 断面図の一部の拡大
- E: 子実体の周辺に生えている毛。
- F: 子囊(胞子をつくる袋)
- G: 側糸(子囊と並列する糸状の構造)
- H: 胞子

## 【左の図の説明】

- A: 胞子。
- B: 子囊の先端の拡大。ヨード試薬で染色される構造がある。
- C: 側糸。
- D: 子囊。
- E: 子実体の断面。
- F: 子実体の断面の概略図。
- 子実体の断面図。



和名の由来: 胞子を生じる層に再び新たな子実体(身=)をつくることから「フタツミ」、分子系統学的にはシロヒナノチャワンタケという菌と類縁性があるので、「フタツミシロヒナノチャワンタケ」としました。

標本番号: TNS-F-17436